

2019年度
「NGO講演会等助成レポート」

一般財団法人ゆうちょ財団
国際ボランティア支援事業部

NGO海外援助活動助成を受けているNGOが、学校、地域団体等で国際協力及び国際支援の意識醸成を図るための講演会等を開催し、当該NGOの海外での活動状況等を説明する場合に、その経費の一部を助成しております。

概要は次のとおりです。

○助成する金額は、講演会等1回につき所要経費のうち5万円を上限とします。

ただし、助成回数は1団体につき1年1回。

○助成の対象とする団体は、NGO海外援助活動助成を受けている団体です。

○助成の対象となる講演会等は、次のとおりです。

- ・参加者（児童・生徒等を含む）が概ね30人以上見込まれる講演会等であること
- ・2019年4月から2020年2月末日までに開催する講演会等であること

○2019年度は5団体へ助成いたしました。

Index

1	特定非営利活動法人地球市民の会	1
2	特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター	3
3	一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会	5
4	特定非営利活動法人アジアの子どもたちの就学を支援する会	7
5	特定非営利活動法人国境なき子どもたち	9
6	アンケート結果	11

特定非営利活動法人地球市民の会

1. 開催日：2019年7月28日（日）14時～16時
2. 開催場所：和道流空手道 古賀道場
3. テーマ：「ミャンマー活動報告会」
4. 講師：柴田 京子（当団体職員 プロジェクトマネージャー）
5. 参加者：13名
6. 内容：①当団体のミャンマー事業の説明
②ミャンマーにおける水確保の難しさ
③暮らしを改善するための水事業と地域の役割
④ミャンマー国内の地域差（シャン州とチン州）について
⑤ミャンマーでの暮らし

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

当団体の活動を通してミャンマー農村部における暮らしの中での問題点、解決として行った活動の事例を発表。事例には、直近で活動を終えた給水事業を挙げ、とりわけ農村部の各地で問題となっている水資源の確保や地域の人々の利用について紹介し、活動による地域住民の意識の変革や、地域ごとに住民が担っていく役割について発表した。

また、よりミャンマーでの暮らしを身近に感じてもらうため、実際に居住する駐在員の日常的且つ文化的な暮らしを発表した。

#### ■参加者の感想

- ・遠いところで行われている活動だが、実際に現地で活動している人から話を聞くことでとても身近に感じることができました。自分にできることを始めていきたい。
- ・現地でご家族と暮らし、根差した支援をされている方からの報告はとても力があり、有意義だと思います。
- ・活動自体はもちろん大事だが、こうした活動の詳しいことを実際に知らせる機会があることもとても大事だと感じた。同じ活動はできないが、現地の状況やニーズを知ることで、自分にできる支援を考える機会にもなった。
- ・有意義な講演会を企画していただき、ありがとうございました。遠いミャンマーが身近に感じられました。また、機会がありましたら是非参加させていただきたいと思います。折角なので、もっと大きな規模で企画されてはいかがかと思いました。
- ・現地の様子を実際に現地で活動している人から聞く機会は少ないのでとても興味深かったです。

### 当財団のNGO 海外援助活動助成を受けた活動の概要

■支援活動：ミャンマー・シャン州の農村における安定した水利用の実現と衛生環境改善事業

■実施期間：2018年6月～2019年3月

■実施地域：ミャンマー連邦共和国 ナウンタヤ郡内4村（ティーユエティーヨウ村、パヤーピュー村、ルエテツ村、パシャームーユエピュードウィン村）

① 「講演の様子」



② 「講演の様子」



## 特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター

1. 開催日：2019年8月30日（金）18時～19時30分
2. 開催場所：聖路加国際病院トイスラー記念ホール
3. テーマ：「パレスチナ・ガザ地区の支援現場から：いのちを守る緊急医療・未来を育む母子健康」
4. 講師：山村 順子（当団体 バレスチナ事業現地代表）  
猫塚 義夫（北海道パレスチナ医療奉仕団 団長/整形外科医）
5. 参加者：70名
6. 内容：①当団体によるガザ事業（子どもの栄養改善事業）  
②猫塚医師による当団体の活動&緊急医療支援

~~~~~

講演会内容

■講演概要

イスラエル軍による厳しい封鎖で人や物資の出入りが制限されているガザ地区では、経済状況が非常に悪く、人々は高い失業率と貧困に苦しんでいる。中でも社会的に弱い立場におかれている女性と子どもは特に影響を受けやすく、栄養失調や貧血の症状が出ている。

ガザに通い、子どもの栄養改善事業に携わる当団体の山村氏と、国境のデモで負傷した患者の治療に当たった猫塚医師がそれぞれの活動を通して見えたガザの現状について講演を行った。会場では、フェアトレードのパレスチナ刺繍製品やパレスチナに関する書籍の販売を行った。

講演①山村 順子（当団体 バレスチナ事業現地代表）

「パレスチナ・ガザ地区の現状と子どもの栄養改善事業について」

封鎖の長期化により貧困化が進むガザ地区の現状と子どもや母親の健康への影響について、また、ゆうちょ財団の助成で実施している栄養失調予防事業の意義と成果について、写真を交えて報告した。

講演②猫塚 義夫（北海道パレスチナ医療奉仕団 団長/整形外科医）

「パレスチナ医療・子ども支援について」

ガザ地区で継続的に支援活動を行っている医療者の視点から、人々の暮らしと苦境、その中で地域での予防的医療の重要性や、日本の市民としてできることについて講演した。

■参加者の感想

- ・実際の現場をご存知だけでなく、現地で活躍いただいているお二人からお話を聞くという貴重な場を提供いただいたことを感謝しています。
- ・“平和”が当たり前だと思っていたが、間違いだと思った。そうではない人も沢山いるということに気付かされました。とても勉強になりました。
- ・個人的に関心のあるテーマであったのでとても興味深かったです。
- ・山村さんの話、基本から丁寧に分かりやすく伝えてくださって、パレスチナ・ガザ問題への理解が進みました。猫塚医師の話、ショッキングな話もありましたが、印象に残りました。情熱（熱い思い）が素晴らしいと思います。
- ・ガザの海水汚染に関することは知らなかったため、大変勉強になりました。

・お二人の話とともに、誠実な思いが伝わってきて、改めて理不尽な状況を変えていくために自分にできることを考えたいと思いました。

当財団の NGO 海外援助活動助成を受けた活動の概要

■支援活動：子どもの栄養失調予防・改善活動

■実施期間：2019年4月～2020年3月

■実施地域：パレスチナ暫定自治区 ガザ地区

① 「講演の様子（山村氏）」

② 「講演の様子（猫塚医師）」



一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会

1. 開催日：2019年11月1日（金）17時～19時15分
2. 開催場所：京都・五右衛門
3. テーマ：「モザンビークのいのちをつなぐ会 講演会」
4. 講師：榎本 恵（当団体代表）
Luis Valerio（ペンバ青年共同組合代表及び寺子屋ディレクター/ミュージシャン）
5. 参加者：44名
6. 内容：①当団体の活動報告及びモザンビークの暮らしや文化の紹介
②マコンデ族の音楽演奏

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

モザンビーク共和国の人間開発指数は、188カ国中180位。北部カーボデルガド州は貧困率が高く、5歳以下の乳幼児死亡率18%、スラムでの失業率は7割を超え、教育、医療、食糧等多くの問題を抱えている。

スラム地区では親の教育への無関心が問題であり、道徳や基本的な教育が不足していたため、これからのモザンビークを担う子どもたちに道徳をベースとした教育を与え、想像力と創造力を身につけてもらうため、2012年9月から当会事務局での教育活動を、2013年にスラムの学舎・寺子屋の建築を開始し2015年から本格始動した。

設立以来、事務局の設備整備を実施していなかったため、当財団の助成にて汚物が溢れてくる事務局外トイレの改修、事務局にスペースがないため備品を収納する物置小屋の設置を実施している。

さらに、現地ではイスラム過激派によるゲリラ攻撃があることや資源開発、また、モザンビークの暮らしや文化について、写真を交えながら紹介した。

最後に、国際相互理解の輪を広げるため、Luis Valerio氏（ナジャ）をはじめとするバンドメンバーによるマコンデ族の音楽を演奏した。

#### ■参加者の感想

- ・情熱が伝わってくる講演だった。
- ・平和の重要性について勉強になった。
- ・日本で伝えられないことが多く、驚いた。
- ・ナジャの歌がとても素晴らしかった。
- ・来年もぜひ来て欲しい。また話を聞きたい。

### 当財団のNGO海外援助活動助成を受けた活動の概要

■支援活動：「事務局兼寺子屋の設備整備」

■実施期間：2019年4月～2020年3月

■実施地域：モザンビーク共和国カーボデルガド州ペンバ

①「講演の様子」



②「演奏の様子」



## 特定非営利活動法人アジアの子どもたちの就学を支援する会

1. 開催日：2020年1月21日（火）10時～11時30分
2. 開催場所：多摩川幼稚園ホール
3. テーマ：カンボジア支援活動報告「知られざるカンボジアの村の生活」
4. 講師：大沼 陽子（当団体副理事長）  
ヴァン・サレイ（当団体支援先 タットム小学校教員）
5. 参加者：32名
6. 内容：①当団体の支援活動「Mother to Mother」の活動について  
②知られざるカンボジアの村の生活について  
③カンボジア料理の試食会

### ■講演会内容

講演①～ヴァン・サレイ先生留学までの道のり～当団体12年間の活動を追って

講師名：大沼 陽子（当団体副理事長）

2019年4月より当団体の支援活動内容及び日本の教育、日本語の勉強の為日本に招聘中の支援校教師であるサレイ先生が、留学に来るまでの道のりを当団体の支援活動の歩みと共に紹介した。サレイ先生の学校で取り組んでいる「Mother to Mother」活動について、取り組む前の状況、取り組んでいる様子、そして取り組み後の様子や変化などを、先生自身の言葉で語ってもらった。現地の先生からの報告は大変説得力のあるものであった。

講演②「知られざるカンボジアの村の生活」

講師名：ヴァン・サレイ（当団体支援先 タットム小学校教員）

支援先の小学校の先生であり、母親でもあるサレイ先生に、自身の言葉で、日本では想像できない村の生活の様子を語ってもらった。初めて知ることも多く、出席者の中からは驚きの声も多く聞かれた。

### ■同時開催A カンボジアのお料理試食会

カンボジアの家庭で食べられている「お粥」の試食会を行いながら、サレイ先生とのフリースークを楽しんで頂いた。

「美味しい!」「どうやって作るのかしら」という声上がり、カンボジアの生活を知っていたく良い体験となった。

### ■同時開催B

ゆうちょ財団助成活動で製作された「Mother to Mother 活動製品販売」を開催した。

### ■参加者の感想

- ・とても興味深い話を聞くことが出来た。
- ・現地の先生の生の声が聴けて良かった。
- ・教育の大切さがよくわかった。
- ・カンボジアの現状がわかり、何かしたいと思いました。

## 当財団の NGO 海外援助活動助成を受けた活動の概要

■支援活動: 最貧困家庭の母親達による、子どもの教育費用を得る為の縫製活動「Mother to Mother」の強化事業

■実施期間: 2019年4月～2020年3月

■実施地域: カンボジア王国シェムリアップ州

① 「講演の様子」



② 「お粥試食会の様子」



## 特定非営利活動法人国境なき子どもたち

1. 開催日：2020年2月14日（金）19時～20時30分
2. 開催場所：朝日新聞社読者ホール
3. テーマ：「子ども職人とストリートチルドレン-児童労働を考える」
4. 講師：①堀潤（株式会社GARDEN ジャーナリスト）  
②清水匡（当団体職員）
5. 参加者：40名
6. 内容：都市に出稼ぎに来る子どもたちにも格差がある。10歳前後にして工場で働き始め職人へと育っていく子どもたちと、物乞いなどでその日暮らしをするストリートチルドレン。職人として自立するのが児童労働と言えるのか。また、自立さえも困難なストリートチルドレンの違いは何かを考える。

~~~~~

講演会内容

■講演概要

当団体の清水氏が昨年バングラデシュの出張で取材した工場働く子どもたちと当団体が運営する「ほほえみドロップインセンター」に通うストリートチルドレンの現状と生活を個々の事例を交えて解説し、堀氏が来場者の視点で質問しながらのトークセッションを行った。

18:30 開場

19:00 開始

前編：工場働く子どもたち

後編：ストリートチルドレン

20:20 質疑応答

20:40 終了

人道写真家としても活躍する清水氏の写真をスライドショーで投影しながら、子どもたちの背景やストーリーを紹介した。

紹介例1) 船の部品工場働くファヒン（14歳）

10歳のときに一人でダッカにやってきて工場働き始めた。職場の人たちはとても良くしてくれて家族のよう。まだ経験が浅いので先輩たちに教わることがたくさんあるけど誇りを持って仕事をしている。先輩たちも自分と同じくらいの年齢から働き始めて稼げるようになっているので、自分も頑張りたい。

紹介例2) ストリートチルドレンのモミン（10歳）

父親と兄の3人で船着場の栈橋下で生活している。母親は病気になり治療ができずに亡くなった。家族3人乗船客相手に水を売る仕事をして生活している。夕方からペットボトルを拾い集める仕事を始める。日中は「ほほえみドロップインセンター」で食事をしたり遊んだりするのが楽しみ。

■参加者の感想

- ・国内では「子どもの貧困」、海外では「児童労働」が問題だと思っていますが「児童労働」の実態をよく知らなかったので良い勉強になりました。
- ・清水さんのお話を伺いながら子どもたち一人ひとりと丁寧に関わられていたんだという印象を受けました。子どもたちの具体的なストーリーを伝えてくださりありがとうございました。自分にできる発信をしていこうと思います。
- ・ Bangladesh の子どもたちの置かれている環境が理解できました。年明けの写真展を拝見しましたが実際に貴重な話を聞くことにより、自分に何ができるかを考える機会になりました。
- ・世界で起きている出来事の一つひとつに目を向けて、自分にできることを長く少しずつ、世界の方々の役に立つようにつなげていければと思いました。

当財団の NGO 海外援助活動助成を受けた活動の概要

- 支援活動：ストリートチルドレンを対象としたドロップインセンター事業
- 実施期間：2018年4月～2019年3月
- 実施地域：Bangladesh 共和国ダッカ

① 「講演の様子」



② 「講演の様子」



2019年度NGO講演会等の助成アンケート集計結果報告書

【全体:137名回答】

Q1：開発途上国への支援については、国同士が行っているほかに、本日の講演会等のようにボランティア団体(NGO)が住民等を対象とした支援・援助を行っていることを知っていましたか。

回答内容		回答数	%
1	知っていた	115	84%
2	知らなかった	22	16%
3	未回答	0	0%

Q2：今日の講演を聞いて、内容について理解できましたか。

回答内容		回答数	%
1	よく理解できた	112	82%
2	まあ理解できた	19	14%
3	理解できなかった	0	0%
4	未回答	6	4%

Q3：今後もいろいろなボランティア団体が開発途上国の住民等へ支援・援助することは必要だと思いますか。

回答内容		回答数	%
1	必要だと思う	134	98%
2	国同士で行うだけで十分	1	1%
3	分からない	1	1%
4	未回答	1	1%

Q4：今日の講演を聞いて、また「現地からの報告」を聞いてみたいと思いましたか。

回答内容		回答数	%
1	聞きたいと思う	136	99%
2	少し思う	1	1%
3	全く思わない	0	0%
4	未回答	0	0%

Q5：今日の講演を聞いて、ボランティア活動に参加してみたいと思いましたか。

回答内容		回答数	%
1	すでに行っている	53	39%
2	したいと思う	76	55%
3	特に思わない	2	1%
4	未回答	6	4%

Q6：今後もボランティア団体のこのような講演会を支援する助成活動は必要だと思いますか。

回答内容		回答数	%
1	とても必要だと思う	120	88%
2	必要だと思う	17	12%
3	特に思わない	0	0%
4	未回答	0	0%

年代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	未回答
	6%	15%	24%	16%	15%	12%	8%	4%

男女比	男性	女性	未回答
	27%	69%	4%